
ひぐらしのなく頃に 罪暴き編

すけかく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひぐらしのなく頃に 罪暴き編

【Nコード】

N9649H

【作者名】

すけかく

【あらすじ】

「捜査活動中の警部が失踪した。」ある県警で発生した刑事失踪事件。捜査の指揮を任された浅田信介警部は捜査を進める内にある少女にたどりつく。浅田は事件を解決できるか？

プロローグ（前書き）

この作品はひぐらしのなく頃に罪滅し編を元にしたオリジナル作品、もう一つの罪滅し編とっていいでしょう。あの悲しい事件をオリジナルキャラの視点から読んでください。

プロローグ

彼女は罪を隠した。

仲間や家族との幸せを護るために。

仲間は彼女の罪を隠した

彼女を護るために。

罪を隠し続けることで彼女と仲間は幸せを護った。

罪を暴こう

とするあなた あなたはなにのために罪を暴くの？

正義のため？それとも復讐のため？

F r e d e i c a B e r n k a s t e l

プロローグ（後書き）

読んでいただきありがとうございます。まだプロローグの段階ですが、ひぐらしのなく頃にの新たな事件を是非最後までご覧ください。

詐欺狩りの失踪（前書き）

本当遅くなりすいません。

捜査二課の警部失踪、動き出す県警と二人の警部の序章です。

詐欺狩りの失踪

「暑くいいいい」

書類が山のように積み上げた机に寝そべるようにしていた黒いスーツの男性が叫ぶ。

「暑いのは、わかったからさ、仕事進めようよ佐野くん。」

「わからかな浅田警部殿暑いから手が動かないのだよ。」

「暑いのは俺も同じだからさ仕事しようよ佐野警部殿」

俺の名前は浅田信介、XX県警察本部刑事部捜査第一課捜査第四係係長という馬鹿長い肩書を持っている。階級は一応警部で部下も14人いる。

先程から暑いと騒いでいるのが副係長の佐野健輔

階級は同じく警部で警察学校の同期、しかも同時期に所轄の刑事課から捜査一課の同じ係に異動になって以来ずっとコンビを組んでいるが、同じ階級の者が同じ係にいるのは日本中探しても此処だけだろう。

「ああどうしよう暑くて死んじゃうよ」

何くいくらなんでも大袈裟だろ・確かにはいつもは冷房が効いているのだが、昨日故障してしまい、7月の下旬だけあって暑いといえば暑いのだが、仮にも奴は副係長だから暑いという理由でサボっている、外回り中の部下に悪い。

「佐野仕事してくれよ」

さつきから進んでないし」「だくらく暑いから体が動かせないの」

「よし、じゃあこの暑いなかでも仕事が出来魔法の言葉をいってやる。」

「ほそれはどんなものかな」

「警務部の監察官室に報告するぞ」

ダウンしていた佐野は凄まじいスピードで書類を書きだした。魔法

の言葉・・脅しは効いたようだ。

「浅田く佐野く暇か？」

突然、とてつもなく明るい声と共に制服の男性が入って来た。

「高村課長くどこをどう見たら暇に見えますか」とくに右脇の副係長の警部殿を見れば暇じゃないぐらいますよね？」

俺は新幹線のようなスピードで書類を書くサボリ警部を指差した。

「佐野・・・2、3時間見ない間に人間辞めて新聞用の印刷機になったのか？」この男性は捜査一課課長の高村警視正だ。

高村課長は柔軟な発想と大胆な捜査方法と現場主義で自ら先頭に立って指揮をとる、捜査員の意見は例え所轄の刑事であろうと耳を傾けてくれるから捜査一課はじめ所轄の刑事からの人望が厚い人だ。

「お前達に話がある、部長室まできてくれ。」

部長、つまり刑事部長のことだ。

「沢井部長がですか、何かあつたんですか？」

「佐野、声が大きidez、ここでは詳しくは言えんが内件といえは大方わかるだろ。」

内件とは内密事件という単語の略で県警内で警部以上の職員が使う暗号であり現段階では警部以下の職員には発表してはならない事件のことだ。内件に指定されている事とは？

多分かなり特殊な事件かなにかだ。佐野も先程までのサボリ顔から真面目顔になった。

「了解です。刑事部長室に行きます。」

刑事部長室はその名からバカ広く、豪華な置物がありそうなイメージだが部屋の面積はだいたい小学校の校長室を想像していただければわかると思う。応接セットもいい具合に使い古されている。

部屋の中央に置かれた机に制服の初老の男性が座っている。この方こそ刑事部長の沢井警視長だ。

「浅田、佐野、わざわざご苦労様、捜一のエース警部二人に来てもらったのは他でもない。二課長、説明頼む。」

部長は自分の右側に直立不動の体勢で立つ男性にいった。捜査二課長の木島警視正だ。今年警察庁から出向して来た国家公務員のいわゆるキャリア組の人だ。「浅田警部、佐野警部は沖田警部はご存知かな？」

「はい、沖田警部には捜査で何度もお世話になりましたから。」

沖田正一警部、捜査二課の詐欺事件を担当する知能犯係の係長だ、所轄の知能犯時代に管轄内で発生した連続企業詐欺事件を解決しその後、本部捜査二課に異動になり幾つもの詐欺事件を解決し、詐欺狩りの沖田と呼ばれるようになった

「その沖田警部が、昨日疾走した。」

え・・・今なんて・・・「信じられんのも無理はない、私もまだ信じられが事実だ・・・沖田警部は二ヶ月前から興宮で発生した詐欺事件の捜査を興宮の二課と合同で捜査していたんだが、ある情報筋から二人の重量参考人が上がったんがその二人が行方をくらましてしまったんだ、沖田警部はその二人がホシとして追っていたんが・・・昨日沖田警部が捜査本部を出たきり戻って来ない。」

二課長がいい終わるといままで目をつむり黙っていた沢井部長が口をひらいた。

「詐欺事件の重要参考人が失踪、そしてその事件の捜査責任者も失踪、わかるなこの二つの失踪は繋がっている！偶然ではない・・・県警の警部が捜査活動中に失踪した、刑事部は捜査一課と捜査二課、それに興宮の一課と二課の合同でこの二件を捜査する、指揮は浅田が執れ！いいな！必ず沖田を見つけてやってくれ」

『了解です』

部長に敬礼し部屋を出た

詐欺狩りの失踪（後書き）

わかる方はもう沖田警部が追っていた事件と重要参考人が誰なのか
おわかりでしょう・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9649h/>

ひぐらしのなく頃に 罪暴き編

2010年10月9日02時17分発行